

「青島温州」の隔年交互結実栽培のための豊作年の効率的な全摘果法

[要約] 隔年結果の著しい「青島温州」は、豊作年に新しょうを発生させ、生理落果最盛期に摘果剤とマシン油乳剤の混合液を散布すると効率よく落果し、残果が少なく全摘果が容易にできる。翌年には安定して中玉果が生産できる。

長崎県果樹試験場・常緑果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

指導

平成 12 年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

「青島温州」は、隔年結果性が強く豊作年には着果過多状態になるため、摘果が不足したり収穫が遅れると、翌年は着花(果)が不良となり、収量が著しく減少する。また、果実は大玉化となり商品性が低下する。そこで、隔年結果の著しい園では、園の一部の樹を豊作年にできるだけ労力をかけないで全摘果して不着果樹とし、園内に着果樹と不着果樹を設け、隔年結果性を活用して交互に結実させて、園(または経営体)として連年着果させる隔年交互結実栽培技術の体系化を検討する。また、着果樹については樹上選果主体の省力的摘果法が果実品質に及ぼす効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- ① 豊作年(1999年)に全摘果したことで、次年の不作年には着花量は達観(1~5段階)で中~やや多(平均3.5)となり、結果母枝当たりの着花(果)数も増加する(表1)。
- ② 摘果作業については、摘果剤フィガロン(1000倍+マシン油200倍)の散布によって大多数が落果するため、人力での摘果個数は少ない。したがって、残った果実の摘果方法の違いによる不作年の着果数に差はない(表2)。
- ③ 不作年(2000年)の1樹当たりの着果数は、隔年交互結実区(前年不着果)が多く、このため1果平均重も対照区より小さい。また、隔年交互結実区は、夏秋しょうをせん除したことで樹がコンパクトになり、1㎡当たりの収量は対照区より多い(表2)。
- ④ 隔年交互結実栽培の着果樹の階級割合は、1樹当たり着果数が多く対照区より中玉果(L~M級果)が多い(表3)。

[成果の活用面・留意点]

- ① 摘果剤(フィガロン)の樹体への吸収を促し、効果を発揮させるためには、着花(果)過多年に新しょうを発生させることが不可欠で、不作年に発生した夏秋しょうをせん除しておく必要がある。
- ② 次年の不作年に着実に着花(果)を増すためには、全摘果年の12月~翌年1月に枝を誘引するなどの体系化した管理が必要である。

[具体的データ]

表1 薬剤摘果後の残果処理方法と着花数, 新しょう数 (2000年)

薬剤処理後の 残果処理方法	摘果数 (個/樹)	枝径 (mm)	着花数		新しょう数	花葉比	葉芽/旧葉
			有葉花 (個/母枝)	直花 (個/母枝)	葉芽 (本/母枝)		
6月全摘果	107	10.9	2.4	2.4	3.4	0.69	0.50
7月全摘果	52	11.7	4.0	4.0	2.1	1.27	0.27
8月全摘果	123	10.4	3.2	3.2	2.9	1.11	0.41
6. 7月 1/2 摘果	37	10.7	3.2	3.2	2.8	0.94	0.45
6. 7. 8月枝別摘果	12	10.4	4.2	4.2	3.5	1.14	0.52
隔年交互結実区平均	64	10.8	3.4	3.4	2.9	1.04	0.42
対 照*		13.0	1.0	1.2	2.0	0.41	0.37

*: 夏秋しょう無せん除, 摘果剤無散布

表2 隔年交互結実と着果量 (2000年)

薬剤処理後の 残果処理方法	樹容積 (m ²)	収 量			1果平均重 (g)	糖 度	酸含量 (g/100 ml)
		(kg/樹)	(個/樹)	(kg/m ²)			
6月全摘果	12.3	45.8	288.3	4.1	171.5	12.3	0.99
7月全摘果	12.4	38.1	264.5	3.2	147.8	13.0	0.96
8月全摘果	16.4	67.5	456.0	4.3	148.8	12.8	1.08
6月7月 1/2 摘果	11.2	47.9	345.5	4.6	139.8	13.2	1.07
6月7月8月枝別摘果	8.0	43.1	311.0	5.5	138.6	13.2	1.15
隔年交互結実区平均	12.0	48.6	335.4	4.4	148.1	12.9	1.05
対 照*	18.8	48.9	261.7	2.8	191.1	12.7	1.04

*: 夏秋しょう無せん除, 摘果剤無散布

表3 隔年交互結実と果実の階級割合 (2000年)

処 理	階級割合 (%)						着果数 ² (個)
	3L以上	2L	L	M	S	2S以下	
隔年交互結実区平均	18.5	39.8	23.7	11.0	5.4	1.7	335.4
対 照	46.5	34.3	12.6	4.2	0.8	1.7	261.7

*: 1樹平均値

[その他]

研究課題名 : 品質保証果実の生産安定法
 予算区分 : 地域基幹農業技術化促進研究 (国庫)
 研究期間 : 平成12年度 (平成11年~15年)
 研究担当者 : 古川 忠
 発表論文など : 長崎県試験研究・普及実績発表会